

様式 3

平成 2 5 年度 第 1 回学校関係者評価報告書

鳥取県立皆生養護学校

学校長 松 本 剛 一

評 価 日		平成 2 5 年 6 月 2 0 日 (木)			
委 員	氏 名	年齢	性別	資格・所属等	委員長
	嘉賀 雄一	3 9	男	本校社会人講師	○
	関 香	5 2	女	総合療育センター看護部長	
	坂東 弘美	4 9	女	保護者代表	
	八木 啓子	6 9	女	元皆生養護学校長	
	角 千春	5 3	女	元皆生養護学校 P T A 会長	
評 価 ・ 提 言				学校の所見・改善策等	
1 前年度の最終評価について 平成 2 4 年度末の第 2 回学校関係者評価委員会で評価 をしていただいている。今回はその資料に基づいて確認 を した。				○前年度の自己評価（最終） 、 保護者評価、関係者評価 などを元にして、本年度 の 目標を設定し、取り組 むを 進めている。	
2 前年度の県立学校裁量予算による特色ある学校運営 の 状況について 学校目標達成のために重点目標を設定し、それにそつ た事業について具体的に説明をした。評価の具体的な基 準にそつた評価結果について、できるだけ数値化したも ので示した。				○特別支援教育の専門性の 向上と系統性のある指導 に重点を置き、客観的な 実態把握から学習内容の 制定に関する研修に取り 組んだ。	
3 今年度の評価計画について (1) 目標設定について ・ 一人一人の実態を把握し、将来につながる力をつけ てほしい。そのためには、教員に子どもたちを受け とめたり、見極めたりする力が必要である。 ・ 超重度の子どもとやりとりができる教員を育ててほ しい。				○学校経営方針説明（校長） ・学校のみで完結するの ではなく、将来へつながる 教 育を目指す。 ・一人一人の障がい特性に 応じた教育への取り組み の 2 年目として、昨年度 の 成果と課題をもとに取 り 組む。	
(2) 目標達成のための取組について ・ 卒業後の生活につながる基礎的な力をつけてほし い。本人ばかりでなく保護者への働きかけ（研修や 連携など）をさらに進めるとよい。					
(3) 評価基準及び評価指標について ・ 学校自己評価そのものが 1 年間を見通した大きなも ののために、具体的にイメージしにくい面がある。 ・ 価値観の多様化と年代間のギャップを考慮して行く				・ 具体的な取り組みについ ては学校公開、参観日、 学 校行事、個別の指導計 画、	

ことが必要である。 4 学校運営や予算に関する提言 ○「生きる力」の育成について ・基礎学力の向上 ・肢体不自由児の生きる力や考える力 ・自分で考えて動く力 ・自分の身体のメンテナンス ・超重度の子どものやりとりの力 ○保護者への働きかけ ・仲間作り ・保護者の研修 ・保護者の価値観の変容 ○その他 ・医療的ケアの協力（センター生の学習保障）	懇談、学級通信、連絡帳、ホームページなどを通して公開や説明をしている。開かれた学校として改善を図る。 ・一人一人の実態やニーズに応じた指導に努める。 ・専門性と授業力の向上を目指して実践的な研修に取り組む。 ・今後もPTAと協力して取り組む。 ・県の教員の医療行為について検討委員会の報告を受けてから検討する。
---	---